静私幼だより

慎重に！

- 教員養成校との意見交換会
- 特集「乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達（その4）」 遠藤 利彦
- 特集「子どものできた!を支える「見る力」（その2）」 桐生 大輔
- コミュニティ（保育の窓）
- もの想い（東新田ひばりこども園／認定こども園みのり幼稚園）
- 深刻化する静岡県の利用児童数と定員充足率 安岡 知子
- ナイスショット&編集後記

NO.194
2022③
Spring

教員養成機関と私立幼稚園振興協会との意見交換会

令和３年 12 月 22 日 ㈬ 私学会館にて教員養成機関と私立幼稚園振興協会との意見交換会が開催されました。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で開催を見送りましたが、今年度は感染症対策を講じた上で開催することができました。全体会では千葉理事長の挨拶があり、企画委員会吉田委員長より３月の就職フェアについてのお話がありました。その後、４グループに分かれ、分散会が行われました。分散会では就職と実習についてそれぞれ意見を出していただきました。

就職について

●●学生が望む職場像の最近の特徴・傾向●●

・幼稚園の一人担任が重荷になるため、保育園へ希望する学生が多い。
・保育園を選ぶ理由は子どもに寄り添うイメージがあり、自分が引っ張っていくよりも主体性を重んじていそうだから。
・幼稚園はピアノが弾ける学生が行き、弾けない学生は行かない。
・社会の多様化に伴い、自分に合った園を選ぶ傾向がある。
・初等教育学専攻（四年制）大学でも、小学校教諭にならずに幼稚園教諭を目指す学生が増えている。
・学生たちは、実習に行った時のイメージ（人間関係が良い、園の雰囲気、相談しやすい等）を大事にしている。
・小規模施設への希望、しかも人間関係や労働条件の整っている園を重視する傾向が強い。
・実習中に就職活動が重なり、先に声がかかっている園に行ってしまう傾向がある。
・学生も自分の適性を考えており、力のある学生は幼稚園を選んでいる。
・企業型、小規模、放課後デイ等多様化している。
・はじめは小規模園がいいというが、実習に行くと保育園、こども園にいく学生がいる。四大生は、施設にいく学生も多い。
・保育園志望が多く、幼稚園教諭の取得を取ることが少なくなってきている。
・本人の出身が幼稚園だと、幼稚園に就職している学生が多い。
・東京都への流出もしている。
・大学入学も含めて保育を目指す学生にどう関心をもってもらうか、そこが課題。
・乳児院、児童養護施設を希望する学生も多い。
・ピアノが苦手だと、幼稚園で通用しないというが、柔軟な園があるといい。
・経営学部の中に保育過程があるという特殊性もあるが、幼稚園に行きたい学生は少ない。学生が教育という言葉に拒否反応がある。保育という言葉はやわらかいが、それに比べ教育という言葉がハードルが高いのではないか。
・就職の決定要因は、学校求人（３割程度）、実習（３割程度）、公務員試験、他、就職フェア等からとなる。
・給料、福利厚生から決める学生も多いが、学生自体が園を理解していない実情もある。園見学の機会があるといいが、短大は時間的に難しい。
・子どもと向き合う仕事は保育だと、高校時代から植え付けられている。教育という言葉に恐れおののいている。しかし実習に行くと幼稚園の良さに気づく。
・母園に憧れがある学生や部活動で頑張ってきた学生の方が、幼稚園志向が強い。
・園側は優秀な学生を欲しいといっているが現実難しい。
・短大生は保育系の仕事を希望している比率が高い。大卒は初任給などの条件に左右されるケースが見られる。
・幼稚園への就職を増やすには学生が興味を持っていくしかない。学生さん同士の横の繋がりが大事。幼稚園と協力して、大学側はこの仕事の魅力をもっと発信していきたい。
・中学校のキャリア支援で、学生にもっと保育の魅力の話をしていくのはどうか。

●●人材紹介会社等の扱いについて●●

・大学側は薦めていない。大学側との関係性がよくない学生が応募している可能性はある。既卒者の情報発信も母校で行うようにしたいと考えている。
・コミュニケーション不足の学生が多いが、人材紹介会社等がどれだけ自分に対して不利益か知らせている。
・人材派遣に登録するだけでお金がもらえる。やめるように声掛けはしているが、禁止まではできない。目先のお小遣いに釣られる。就職後問題になるケースもある。
・学校として禁止している。学校に来る正規のルートで就職するように指導している。
・スマホで流れるそういう情報を学生は見ている。

●●学生は職場の人間関係をどのようにとらえているのか●●

・仕事とプライベートをしっかりと分けたい。ライフワークバランスを重視する。

・学生は職員同士の会話や、悪口等を聞いている。
・オリエンテーションでの優しい対応と実際の現場のギャップを感じている。
・自分が実習にいった園ではなくても、友達からの情報でNGになってしまう。
・園に電話するのにすごく緊張する。派遣会社に登録するのもそこに通じる。
・就職後、例えば先輩が帰らないと帰れないなど、納得できないことが続いて離職を考える学生もいる。
・学生は本当は長く働きたい。
・尊敬できる先輩がいる現場で働きたい。人間関係などでやめたくないと考えているので、その前に裏表がないかなど、自分が成長させてくれる職場かよく見ている。
・熱い人が嫌がられている。ちゃんと自分を見てくれているか？上下関係が好きではない。教えてやるという態度が好きではない。子どもに対してもそういう態度の園が敬遠される。共感性が求められ、こうあるべきだというべき論が好きではない。

実習について

●●実習に関して学生の感想とイメージ●●

・現場の先生の声が一番。
・実習先で優しい言葉を掛けられると吸い込まれるように就職する。人間関係を感じ取り、職員間の関係性が良好ならば良いが、園内で愚痴や悪口を聴いてしまうと敬遠される。
・観察、本実習含めた６週間の実習を負担に感じている学生が多い。
・ピリピリ感がある園もある。

●●園側から教員養成校への要望など●●

・実習を通して自分が「教育・保育」に向いているか確かめてほしい。
・学校指定の実習記録日誌がなく、写真のみの記録で簡素化する学校があるが、文章で記録できるものが望ましい。
・実習園の実態を把握した「ねらい」をもって実習に臨んでほしい。
・園側は学生を育てるために本来の仕事とは別で指導を行っているが、大変残念な学生も多い（記録の書き方など指導した部分が直らない、保育職に就くつもりがないなどの発言）。
・実習記録に追われて睡眠不足になっている学生がいる。貴重な実習で大いに子どもとコミュニケーションをとってほしい。
・指導案、観察記録の提出はパソコンを可にしている園もある。
・LINEを通じて学生同士指導案を回している実態もあり、個人情報の漏洩等、学生には注意を促したい。

●●教員養成校から実習園への要望など●●

・園の人間関係をすごく良く見ているので園内での行動・発言は気をつけてほしい。
・打たれ弱い学生が多いので、言動に注意して指導してほしい（実習が終わってから、保育職を離れる決断をする学生がいる）。
・前もって準備していくが、実際には上手にできず失望する学生がいる。この場合は前向きな言葉掛けをしてもらえるとありがたい。
・ダメな学生はダメだけど、長くかけて育てていくつもりでお願いします。
・実習でも車を使わせて欲しい。ただ、施設実習中に事故が発生したケースあり。
・事前に内定している学生を園によこさないでと言われたが、いかがなものか。

各分散会では上記以外に、「学生は公立園を希望する傾向があるのか」「就職試験について」「奨学金」「園での学生のアルバイト」「養成校側で実習先の選別はあるか」についても話題にあがり、活発に意見が交わされました。これらの意見を参考に協会園としても学生の現状を知り、魅力ある職場づくりの一助としていただければと思います。またこの意見交換会が教員養成機関と当振興協会の発展につながることを期待しています。

特集

乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達

その4

ー「安心の基地」が支え促す自発的な遊び≒主体的・対話的で深い学びー

東京大学大学院教育学研究科教授
同附属発達保育実践政策学センター長

遠藤 利彦

1962年山形県生まれ　東京大学教育学部卒業
東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学　博士（心理学）
東京大学教育学部助手、聖心女子大学文学部専任講師、
九州大学大学院人間環境学研究院助教授、京都大学大学院教育学研究科准教授、
東京大学大学院教育学研究科准教授を経て、現職
専門領域は発達心理学・感情心理学・進化心理学など
日本赤ちゃん学会理事・日本子ども学会理事・日本学術会議第25期会員など

前回は、親や保育者などの子どもにとって身近な大人が確かな「安全な避難所」であることの重要性について述べました。子どもは怖くて不安な時に、避難所である大人のもとに駆け込み、その崩れた感情を共感的に映し出してもらうと同時に、慰められ元通りに立て直してもらうことを通して、心の理解能力や思いやり、そしてまた自分や他者への信頼感や自律性といった、重要な非認知的な心の要素を徐々に身につけていくことができるのです。しかし、大人の役割は避難所の機能に留まってはいけないものかと思います。もう一つ「安心の基地」という役割をしっかりと果たすことが大切です。大人は、避難所に戻って安心感を得て元気になった子どもを、自分のもとにそのまま留めておくのではなく、その子どもの背中を押して、再び自分から探索や冒険に向かって行けるように応援し、子どもが何かに果敢にチャレンジする様子を温かく見護ってあげる必要があるのです。このことこそが基地の役割です。大人が「安全な避難所」と「安心の基地」の二つの役割をバランスよく果たすことができている状況で、第1回目でふれたように、子どもは「安心感の輪」を安定して回り、またその輪を徐々に拡げて一人でいられるようになるのです。

「安心感の輪」の上で、ちょうど「安心の基地」から飛び出した時の状態とは、子どもが好奇心の赴くままに遊びに夢中になっている状態であると言えるでしょう。一般的に、子どもの遊びは大きく二種類に大別して考えることができるかも知れません。その内の一つは「孤独な科学者」としての遊びです。そしてもう一つが「社交的な法律家」としての遊びです。実のところ、この二つはそれぞれ、20世紀の最も代表的な発達心理学者二人の子ども観（子どもに対する見方）に対応していると考えることができます。前者は、ジャン・ピアジェというスイスの発達心理学者によるものであり、一方、後者は、旧ソ連のレフ・ヴィゴツキーという発達心理学者によるものです。

まずは「孤独な科学者」としての遊びについてですが、ここで言う「孤独な」とは、子どもが一人黙々と物に向かって遊んでいる様子を指していると考えてみてください。次に「科学者」という表現についてですが、子どもが何か物を使った遊びに没頭している時、子どもの頭の中ではまさしく科学者と同じような知的な営みが自然と生じている可能性があるのだということを指しています。科学者とは一般的に、未だ解明されていない現象に対して仮説を立てて、それを実験によって検証しようとする人のことだと考えることができます。無論、その実験がうまく行けば、その仮説の妥当性は確かめられることになる訳ですが、当然のことながら、実験が失敗に終われば、仮説は組み替えられ、また、新たな実験が施される必要があります。科学者は、実に真摯に地道に、こうした仮説の設定と実験による検証

とを何度も繰り返し行う訳です。一見、こうした、それこそ眉間に皺を寄せながら行われるような科学者の知的営みと、嬉々とした表情でなされる子どもの遊びの姿とは大きくかけ離れているかに見えます。しかし、実のところ、子どもが好奇心に駆られて、一人、遊びに没頭している状態とは、その頭の中で、まさにこの仮説設定と実験検証のサイクルが延々と廻っているような状態と言えるのではないでしょうか。その意味で、子どもが好奇心の塊になって、あれやこれやと一人、夢中になって遊んでいる姿は、まさに「孤独な科学者」と言えるのです。たとえ大人目線からはつまらなく意味のないもののように見えても、子どもにとって楽しい自発的な物遊びは、基本的に、とても高水準な知的営みであり、子どもはそこで確実に地頭を鍛え上げているのです。

ピアジェという研究者が、子どもを取り巻く環境の中でも、どちらかというと物理的環境に対して子どもが能動的に関わる中で、自身の心の働きを徐々に高めていくプロセスを重視したのに対し、ヴィゴツキーという研究者は、どちらかと言えば、社会的環境の方に重きを置き、子どもが様々な他者と濃密な相互作用を展開する中で、子どもの心の働きが次第に拡張していくあり様に着目したことで知られています。当然のことですが、子どもは、黙々と孤独な遊びにふけるだけではなく、他の仲間などと実に社交的に関わり、時に、大人が思いつかないような多様な二人遊びあるいは集団遊びを頻繁に見せるものです。特に、言葉を獲得して以降は、遊びの中で、いろいろな言葉を介して、相互に積極的にコミュニケーションを取り合い、他者の心と自分の心を、重ね合わせたり、衝突させたり、溶け合わせたりするようになります。

無論、自分の「こうするつもり、こうなるはず」という思いと他児の「こうするつもり、こうなるはず」という思いが、最初から一致していることは少なく、そこに様々な軋轢や葛藤が生まれてしまうことも日常茶飯事でしょう。時にはそれが、厄介ないざこざやトラブルに発展してしまうことも考えられます。しかし、そこで少なからず、子どもは「法律家」さながらに、自分の心と他者の心に何とか折り合いをつけようと相互に言葉を通してかけひきや交渉を始めるのではないでしょうか。押したり引いたり、また、その中で、双方が納得できるような新しい考えを提案したりすることもあるでしょう。もちろん、子どもからすれば、それは、一人で遊んでいてもなかなか到達できないような、刺激的で創造的な遊びを、他児との対話を通して造り掘り下げていく、それこそわくわくするような楽しい体験に他ならないのでしょう。こうした状況下にある子どもの姿はまさに「社交的な法律家」と形容し得るものであり、相互のやりとりやかけひきの中で、子どもの頭はごく自然にフル稼働することになり、そこでも子どもの地頭が鍛えられていると言えるのです。

ヴィゴツキーは、他の人との間で交わされる現実の言葉のやりとりが、次第に子ども個人の頭の中に取り入れられ、言ってみれば、子どもは頭の中でも、様々な他者を思い浮かべ、あるいはいろいろな自分を作り上げ、そして、それらと、問いを発したり答えたり、音声を伴わない豊かな対話ができるようになっていくと仮定しました。実のところ、このことは、言葉が、単に伝達手段としてあったものから、思考の道具へと拡張されていくプロセスと言い換えることもでき、こうした中で、子どもの心の機能は飛躍的に発展していくと考えられるのです。

「安心感の輪」がうまく回る中で、とりわけ「安心の基地」に力強く後押ししてもらうことを通して、子どもは、質の高い二種類の遊びに没頭することが可能になります。そして、それらの遊びを通して、いわゆる主体的・対話的で深い学びがごく自然な形で成り立つ可能性が高いのだと言えます。現在、世界における幼児教育の基本的な考え方は、いわゆるアクティヴ・ラーニングをとても重視するものになってきています。一般的に、アクティヴ・ラーニングは、主体的・対話的で深い学びという言葉で置き換えられることが多い訳ですが、この内の「主体的な深い学び」はとりわけ「孤独な科学者」としての遊びによってもたらされると考えることができます。一方、「対話的な深い学び」はとりわけ「社交的な法律家」としての遊びによってもたらされると言えるでしょう。

幼少期において重要なことは、既にこの段階から「こんなことができる、言える」という結果が出ていることでは必ずしもありません。たとえ未だ結果は伴っていなくとも、むしろ、自発的に頭を使うという経験そのものが最も重視されるべきものなのです。子どもが一番頭を使うのは、他でもないここで述べてきた二種類の遊びの中であることを私たち大人は再確認しておくべきでしょう。また、遊びの中で、その子なりに頭を使い、何かを成し遂げる中で、内発的動機づけ（おもしろいからもっとやってみたいというやる気）や自己効力感（やればできるはずだという自信）といった重要な非認知的な心の要素も徐々に子どもの中に備わっていくのだと考えることができます。

子どものできた！を支える『見る力』

～ #2 「見る力」に関連するさまざまな機能～

桐生 大輔

（臨床心理士・公認心理師 / 株式会社コンテ・代表取締役）

1972 年静岡県牧之原市出身
愛知学院大学大学院修了
医療・福祉・教育領域での臨床心理業務経験を経て、2018 年に浜松市で「みんなの心理相談室 cont-e」、2020 年にビジョントレーニング教室「目とカラダの発達教室 cont-e」を開設。その他、私立幼稚園、こども園への臨床心理・発達コンサルテーション事業・研修 / 講演会を提供している

今回は、「見る力」が発揮されるために、どのような視覚機能が備わっているのか、脳でどのようなことが行われているのか、紹介させていただきます。

「見て、考えて、行動する」ための脳機能

車を運転していて交差点に差し掛かったとします。すると、信号機が黄色に変わりました（入力機能）。そして、脳は、「これは止まらないといけない距離だ」（情報処理機能）と判断しました。そして、足の筋肉に指令を出して、ブレーキを踏みます（出力機能）。

「見て、考えて、行動する」ために、脳ではこうした一連の作業（視覚認知過程）が一瞬のうちに行われるわけです。そのために、さまざまな視覚や運動機能が相互に協調しあい、「見る力」を発揮するのです。以下に、こうした脳の機能について説明していきます。

1）「入力機能」

どんな活動にも、視覚情報を正確に素早く「入力」することが必要ですが、まず大切なのことは、物がはっきりと見えているか「視力」の確認です。視力検査で問題が見つかれば、近視、遠視、乱視などがないか、眼科を受診しましょう。

ここで取り上げる重要な機能が、**①両眼視 ②調節 ③眼球運動**です。

① 両眼視機能

両眼で見るべきものを捉える機能です。近くの物を見る時、両眼は内側に寄り、遠くの物を見る時には外側に離れる動きをします。両眼で対象物を捉えると左右の映像に若干のズレが生じます。このズレを脳が融像することで、世界が立体的に見えるのです。それは、奥行きや自分からの距離の認識につながります。両眼を寄せることを「輻輳（ふくそう）」、外側に開くことを「開散（かいさん）」といいます。こうした機能に弱さがあると、映像が２重に見えたり、距離感が掴みにくい。また、眼が疲れやすい。そのため、片目をつぶる、首を傾けて見る様子が見られるようになることもあります。これらが、注意集中力の持続に影響を与えて学業の低下につながることもあります。

② 調節機能

自分と見るものとの距離は常に変わります。その距離に

応じて眼は自動的に水晶体（レンズ）の厚さを変えてピント（焦点）を調節します。ここに問題があると、本やパソコンの画面を見ていてすぐに目が疲れたり、文字や画像がボヤけて見えるといったことが起こりやすくなります。子どもがスマホなど小さな画面を長時間見続ける機会が多くなりました。調節機能に悪影響を及ぼさないように注意したいですね。

③ 眼球運動

対象物をはっきりと見るには、光刺激を網膜上に取り込まなくてはなりません。そのために、眼球を素早く、正確に運動させる必要があります。視線を物から物へと飛ばすようにすばやく移動させる「衝動性眼球運動」と、線をなぞる時にペン先を目でじっと追うようにゆっくり視線を動かす、または視線をじっと止めておく「追従性眼球運動」があります。

③－１ 衝動性眼球運動

見るべき物にすばやく視線を向ける。鬼ごっこで逃げ手を瞬時に探したり、自動販売機で目当てのジュースを探し当てる時などには眼球を素早く動かす必要があります。あらゆるスポーツ競技や、本読み、書き取りなどにも大きく関与する機能です。

③－２ 追従性眼球運動

対象物は止まっているとは限らず、動いている物にじっと視線を合わせて追うことも多いです。先生が指で宙に書く文字を、子どもが目で追って自分も真似て覚える。転がってくるボールを捕球する。定規で線を引いたり、ハサミで線に沿って切るなどを支える機能です。

2）視覚情報処理機能

入力した視覚情報を分析・処理する機能です。線の形や長さなど形態の特徴を捉える形態認知と、位置関係や方向などを捉える視空間認知がこの機能を支えています。図や文字を書き写す際に、形を全体として捉えて、どんな部分（パーツ）で組み立てられているのか、それらはどんな位置関係で、向きはどうか、書き順はどうか？など、複雑な情報処理が施されます。

また、頭のなかで形（イメージ映像）を回転させたり、反転させることができることで、文字を逆さまでも読めたり、実際の方角と見ている地図に書かれた方角が違っていてもそれを補正しながら目的にたどり着けるわけです。この機能の弱さによって、絵や文字の形を覚える、描くことが辛くなる、上下・左右など空間の理解が難しいといったことがあります。

この機能を支えるのが、小さな頃からの身体感覚や運動感覚です。滑り台を滑る感覚が、書字における「斜め線」へと移行させていきます。このように、「見る力」は、聴覚や触覚、固有受容感覚、前庭感覚などの感覚に刺激され、その機能を高めますし、「見る力」もさまざまな感覚の機能を高めていきます。こうした相互的な作用によって子どもの発達は加速していきます。

視覚情報処理が進むとやるべき目的が明確になります。その実現に向けて、どうやって身体部位を動かすか、順序はどうかなど計画が立てられます。その際に大切なことが、ボディイメージやメンタルボディマッピングです。身体イメージ（手足の長さ、身体の厚みなどの感覚的イメージ）や、身体バランスを保つための中心感覚、各部位の動きや位置認識のイメージをもとに計画が立てられるわけです。実行中もそれらをもとに、修正や変更がされていき、効率的に目的が達成されるわけです。

3）「出力機能」

視覚情報に応じて何をすべきかイメージができたら、実際に手や足など身体の各部位を連動させて行動するのが「出力機能」です。鉛筆を手に取り、紙にペン先を適度な力で押し当てて、目的地まで手先を動かす。適切なタイミングで手を握ってボールを捕球するのが、この段階です。ここでは、目と身体の部位が連動することが重要になります。この機能の弱さには上記でも説明したように、「見る力」と関連した身体や各部位の動きについてのイメージの弱さなどが関連していることがあります。頭ではわかっているけど、そうならない。子どもは落ち込む一方で、大人は、「見本をよく見なさい！」となりやすいものです。しかし、こうした理由から、見せるだけでなく、イメージや感覚を補うために身体に触れて動かし方をガイドするなど、丁寧に、根気よく指導することが必要な場合もあります。

「見る力」は、さまざまな機能が獲得され、複雑に連動し合えるようになって成り立っています。これらは、当たり前にできるようになるのではなく、さまざまな活動や遊びから得られた刺激や体験の積み重ねから獲得されるものです。日々の生活の中で、大人たちのかかわりがこうした機能の発達に影響を与えていることを忘れないようにしたいものです。

この一年を振り返って

日本平幼稚園　井上 郁奈子

私のこの一年は、非常に刺激的で濃く充実した一年であったと思います。年中児クラスの子どもの担任となり、「井上先生」と呼ばれる毎日は今までになく新鮮で、小さい頃からの夢が叶ったかけがえのない瞬間でした。しかし、楽しいことばかりではなく子どもとの関わりで戸惑いも多く、自分の保育力のなさを痛感したりと日々、様々な思いと向き合うこともできました。

私のクラスにとても好奇心旺盛で気になったもの、目についたものにすぐに飛び込む性格の女の子がいます。時々、勝手に外に出てしまい、危険な行動をすることも見られました。そこで、その女の子と向き合っていく中でまず一つの目標を立てました。それは「一日、お部屋で過ごすことができるようになること」でした。強制的ではなくその女の子の意思でいられるようにしたかったので、どのようにしたら良いのかと試行錯誤を繰り返しました。まず女の子との信頼関係を築き、安心してお部屋で過ごせるような環境づくりを心掛けました。毎日抱きしめたり、小さなことでもできたら褒めたりするなど、些細なことですが毎日行いました。すると、お部屋にいることが当たり前になり、以前は欲求のままに動いていたのが我慢をすることができたり、「～しても良いですか？」と聞いてから動くことができたり、成長した姿が見られるようになってきました。ただその中で大切にしていたことは、その女の子だけを特別視するのではなく、あくまでクラスの一人の子どもとして接することでした。クラスで保育を行っているので、その子だけにならずに全体を見て保育を行うことを常に心掛けるようにしました。

クラスをまとめること、一人ひとりと向き合うということは、まだ先輩の先生と比べて未熟で毎日反省の日々ですが、それでも自分のできることは全力で行い、丁寧に子どもたちと関わることを常に忘れないよう心掛けています。また、先輩の保育で真似できることはどんどんと取り入れていき、子どもたちに質の良い保育を、そして毎日が笑顔溢れる充実した日々を送ることができるように心掛けていきたいです。

幼稚園教諭２年目を終えて

高洲幼稚園　八木 夢香

「ゆめかせんせい、おはよう!!」

毎朝、子どもたちの元気な声で私の忙しく楽しい１日が始まります。私は今年で２年目、２度目の年少の担任をしています。

分からないことだらけで必死だった１年目。夢が叶って幼稚園教諭、年少 17 名の担任となり、初めてクラスの子どもたちの前に立った時の緊張と喜びは忘れられません。しかし、現実はそんな甘いものではなく毎日が自分のことだけで精一杯。余裕も無く、焦りと失敗の連続でした。落ち込みと反省する毎日…「ゆめかせんせい！あそぼう！」と慕ってくれる子どもたちの笑顔と、優しく丁寧に指導や助言・アドバイス、温かい言葉をかけてくださった先輩方に何度救われたことか分かりません。泣いて登園を渋っていた子が元気良く登園して友達と遊ぶようになったり、できなかったことができるようになり、自信をもって行動する姿を見ることができたりと学びと喜びの多い１年でした。

２度目の年少。１年目に学んだことを活かして「こんな声かけをしてみよう」「こうしたら子どもたちがもっと楽しめるかな」など心に余裕をもって保育ができるようになりました。子どもたちと一緒に楽しめる時間が増えたように思います。そして２年目だからこその学びも沢山あります。同じ年少でも昨年と同じようにはすすめられません。一人ひとりの育ちや成長の違いに合わせた対応と指導の重要性、必要性を強く感じ、日々子どもたちと先輩方から教えていただいています。

やっぱり２年目も必死だったようで、あっという間に終わりを迎えようとしています。子どもたちの成長した姿に喜びを感じ、幼稚園教諭の責務の重さとやり甲斐のある職務に携われる幸せを実感しています。私は子どもの心に寄り添う保育者を目指し、これからも学び続けていきたいと思います。

新型コロナ感染症が終息したら、もっともっと楽しいことが子どもたちとできる！そんな希望も持ちながら３年目も子どもたちと一緒に成長していきたいと思います。

幼稚園教諭６年目を迎えて

神戸幼稚園　内山 巳佐希

私は大好きだった幼稚園の先生に毎年年賀状を送っています。先生から頂く年賀状を見ると、その頃の思い出が蘇り、いつも励まされ、将来は幼稚園の先生になりたいと思うようになりました。その夢を叶えて６年が経ちました。

毎日子ども達と過ごし、保育の難しさから壁にぶつかることもありますが、とても楽しく充実した日々を過ごしています。今は、仕事にも慣れてやり甲斐も感じますが、まだまだ反省することも多く、勉強の毎日です。

初めての担任は、年長児を受け持ちました。一年目に年長のクラス担任になり、とてもプレッシャーを感じました。幼稚園の先生になれて嬉しい気持ちの反面、失敗ばかりの日々でした。どのようにしたら上手く保育が進められるようになるのだろうと悩みましたが、先輩の先生方のように子ども達が楽しんで行えるような保育ができるようになりたいと頑張りました。自分なりに試行錯誤し、それでも上手くいかない時は先輩の先生方を頼り、保育をみさせていただいたり、こうした方がいいよと助言を頂いたりしました。６年間、この仕事を続けてこられたのは、先輩の先生方のお陰です。

今年は年中児の担任になりました。昨年は年少児でしたので半分は去年みていた子ども達でやりやすいのだろうと勝手に思っていましたが、メンバーも替わり全く違うクラスで今までの対応では上手くいかないことも多く、やりにくさを感じました。子どもにとって一番良い対応をしてあげたいと思う反面、その対応が合っているのかも分からず日々悩んでいます。その大変さを知り、苦しいと感じてしまうこともありますが、そんな中でも子ども達の成長を身近で感じ、感動を共有し合える貴重な時間を与えて貰っているのだと感じました。これからも子ども達一人ひとりと向き合い、子ども達が色々なことに挑戦し、成長できるようサポートをしていきたいです。

憧れの幼稚園の先生になって…

百花幼稚園　小粥 哲平

幼稚園の先生という職業に就き、あっという間に４年が経ちました。私自身、幼いころにお世話になった先生に憧れ、幼稚園の先生になろうと決意したのは中学生の時です。当時幼稚園に通っていた弟がいたこともあり、幼稚園に足を運ぶ機会が多くありました。その時に、目に映った先生と子どもたちとの関わりや、幼稚園の魅力をたくさん感じることができ、「先生になりたい！」という思いが強くなりました。そして何よりも素敵な先生方と一緒に働いてみたいという思いが強くありました。

先生という目標に向かっていく中で、男性の先生としてどんな先生になりたいのか考えた時に、「子どもたちに親しまれ、笑顔溢れる楽しい先生になりたい」そして「子どもたちに寄り添い、いつでも安心できる先生でありたい」という思いでいました。子どもたちにとって、担任の先生はとても大きな存在だと思います。１年目の時には、自分自身が男性の先生ということもあり、「子どもたちと楽しく生活できるのか」と不安になることもありました。しかし、子どもたちと一緒に活動や遊び、そして行事などを通して、信頼関係が深まっていくことを感じることができました。最初のころに不安に感じていたことも、子どもたちと過ごしていく中で、いつの間にかなくなり、子どもたちの成長を、毎日見守っていくことができる嬉しさや、子どもたちの様々な魅力に引き込まれていきました。

私は今、年長クラスの担任をさせていただいています。子どもたちと一緒に過ごす中で、子どもたちに驚かされることが多くあり、毎日楽しく過ごさせていただいています。大人が考えつかないようなことや子どもならではの発見など、子どもの好奇心は無限大だと改めて感じています。これからも子どもたちからたくさん学び、一緒に成長できる幼稚園の先生でありたいと思います。そして、自分自身も好奇心を忘れず、楽しく保育をしていきたいと思います。

息子の成長と PTA 活動

東新田ひばりこども園 父母の会会長
笠井 恒玖

我が家には、本当にやんちゃな年長の息子がいます。息子が３歳の時から東新田ひばりこども園には大変お世話になっております。

振り返ってみれば、入園時には、子どもが私どもと離れるのがいやで、泣きじゃくっていたのを、優しく抱きかかえ、気持ちを落ち着かせていただいたことからのスタートでした。それで安心したのか、息子は、それから一度もいやがることなく通園できました。また、お友達と遊びのことでけんかしたときも、熱心に何が良いことか悪いことかを教えていただきまして、それからは、お友達との接し方もずいぶんと良くなったようで、成長の跡を感じております。

好奇心旺盛な息子は年長になった今でも園で大変迷惑をかけていますが、そのたびに園の先生方の寛大な心でご指導いただき感謝しかございません。家に帰ってきて園での出来事を楽しそうに話している息子を見ていると、本当に東新田ひばりこども園さんに入園して良かったなと夫婦で話しております。

東新田ひばりこども園には用宗にひばり幼稚園という姉妹園があります。いろいろなイベントを合同で行うのでひばり幼稚園の先生方にも大変お世話になっております。合同イベントの中では年少・年中さんとも関わることが多く、とても面倒見が良いと先生方から聞きました。「やんちゃな息子が？」と半信半疑でしたが運動会の時、リレーの第一走者で待っている息子に姉妹園の年中さんから「〇〇君がんばれ！」とエールが！驚きとともに感動で思わず泣いてしまいました。

本当にやんちゃで迷惑ばかりかけている息子ですが、残り少ない園生活を精一杯、お友達や先生方と楽しんでもらえたらなと願っています。

そんな息子がお世話になってる恩返しにと、園の父母会会長を軽い気持ちで引き受けたら、あれよあれよと静岡市と静岡県の PTA 会長になってしまいました（笑）。コロナ禍で行動が制限された中、東新田ひばりこども園の先生方・役員様・保護者様、市や県の理事の先生・役員様・関係者様のお力を借りて円滑な運営ができたことを厚く御礼申し上げます。残り少ないですが、父母の会や私 P 連の活動がお子様や保護者様にとって楽しい思い出の１ページになっていただけるよう尽力してまいります。

園とともに成長した子どもたち

認定こども園みのり幼稚園 保護者会会長
藤井 結香

我が家には、小学校５年生の長男、３年生の次男、年長組の三男がいます。３人共に、みのり幼稚園にお世話になり今年で８年目になります。長年にわたり、我が子の教育にご尽力いただいた先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

長男は体が弱く入院することが多かったのですが、常に体調を気にしてくださり、安心して通うことができました。偏食があり、初めての集団生活の中で、給食のことが気がかりでしたが、先生方が熱心にしてくださり、たくさん食べるようになりました。今ではプール教室に通い、体も強くなりました。

次男は、長男と１年間一緒に通うことができました。人見知りが強く、兄がいても登園するのを嫌がり、泣いてばかりいました。自分から話すことも苦手で、いつも一人でいるので心配が尽きなかったのですが、年長児になると、多くのお友達の中にいるようになりました。卒園式では、「先生と離れるのがさみしい」と、最後に大泣きしたことをよく覚えています。

小さな頃から幼稚園に馴染みのあった三男ですが、入園当初はよく泣いて、先生の抱っこで教室まで行くことが多かったです。今ではお友達の話をして、「幼稚園楽しい！」と笑顔で行っています。最近は自分で時計を見て、「何分にお家を出るよ！」と決めて、一人で身支度ができるようになりました。いつの間にか字も読めるようになり、お友達にお手紙を書いています。園生活の中で就学に向けて先生方がご指導してくださるお陰だと、嬉しく思います。

昨年に続きコロナ渦で、様々な制限がありますが、園長先生を始め、先生方の努力のおかげで運動会や、音楽発表会などの恒例行事が無事に行われたことには感謝しております。田植えや、稲刈りの体験を経て、作ることの大変さや大切さを学ぶことができました。子どもたちのかけがえのない幼少期をみのり幼稚園で過ごし、たくさんの思い出ができたことを親子共々幸せに思います。ありがとうございました。

深刻化する静岡県の利用児童数と定員充足率

安岡 知子
株式会社福祉総研
コンサルタント

12月号では、少子化が、今後の園児数にどれほどのインパクトを与えるか、静岡県の出生数をもとにお伝えしました。今号では、保育業界を取り巻く現在の状況を、国全体、静岡県のデータから見ていきます。

国の推計よりも加速する少子化

まず国全体の状況です。

出生数は、2019年の「86万ショック」から、2020年は84万人（▲2.8%）へと減少。さらに2021年はコロナ禍が拍車をかけ、厚労省の推計計算式による当社試算では約80万5千人（▲4.3%）となる見通しです。出生数80万人台は、国が中位推計により想定している出生数に照らし合わせると2028年と同じ水準になり、実際の少子化は7年ほど早いペースで進んでいます。

2021年4月1日時点の待機児童は、厚生労働省「保育所等関連状況とりまとめ」によりますと、昨年の半分以下の5,634人、調査開始以来、初めて1万人を下回り過去最少でした。2号・3号の利用定員は3,016,918人、利用児童は2,742,071人で、274,847人の定員割れ、定員充足率は90.9%でした。

例年ですと、0歳児は年度当初は空きがあっても、年度途中で入園があり定員が埋まるのですが、今年度は様子が異なりました。待機児童数が最も多い東京都でさえ、9月の時点で、0歳児で1,783人の定員割れ、2号・3号では約2.5万人の定員割れが起こりました。

2013年度～待機児童解消加速化プラン、2018年度～子育て安心プラン、そして2021年度～新子育て安心プランのもと、待機児童解消のため保育の受け皿整備がされてきましたが、年度途中であっても定員が埋まらないほど供給過多の状況になっています。

厚生労働省は、2021年5月に初の試みとして、2号・3号の利用児童数のピークは2025年になる見込みと発表しました。この試算では、出生数は中位推計が用いられ、女性の就業率は政府目標の82%に上昇するとされています。しかし、実際の出生数は中位推計よりも大幅に減少しており、女性の就業率の伸びは鈍化していることを考慮しますと、利用児童数のピークは2025年よりも早まる可能性があります。

静岡県は全国平均より厳しい状況

続いて静岡県の状況を見ていきましょう。

静岡県の出生数は、2019年23,457人から、2020年は22,497人（▲4.1%）へと減少しています。2020年度から2024年度まで5年間の静岡県こども・子育て支援事業支援計画をまとめた「第2期ふじさんっこ応援プラン」（以下、「2期応援プラン」）によりますと、年々利用児童数が減少し、2024年度には1号・2号・3号で36,771人の定員割れ、定員充足率74.2%。2号・3号のみでは10,478人の定員割れ、定員充足率87.4%。1号のみでは26,233人の定員割れ、定員充足率55.8%、の予測となっています。【表1】

2021年4月1日時点の待機児童は、静岡県「保育所等利用待機児童数 速報」によりますと、昨年のちょうど半分の61人、子ども子育て支援新制度が施行されて以降最少でした。2号・3号の利用定員は75,844人、利用児童は67,333人で、8,511人の定員割れ、定員充足率は88.8%と、「2期応援プラン」の2024年度の予測値レベルまで悪化しています。「2期応援プラン」の減少予測を踏まえますと、2021年が利用児童数のピークになるのではないかと推察しています。

これからの園経営を本気で考える局面

2020年出生数の前年比率は、国全体▲2.8%、静岡県▲4.1%、また、2021年4月1日時点の定員充足率は、国全体90.9%、静岡県88.8%となっており、これらの実績データから見て、静岡県は、国全体よりも深刻な状況といえます。【表2】

加えて、「静私幼だより」をお読みの多くの園では1号の子どもがメインであることを鑑みますと、「2期応援プラン」に記された、2024年度に1号の定員充足率が55.8%に落ち込むという事態を重く受け止め、これからの園経営を本気で考えなくてはならない局面なのではないでしょうか。

【表1】静岡県の予測（「第2期ふじさんっこ応援プラン」参照）

静岡県の予測	令和2年		令和6年	
	供給過多	定員充足率	供給過多	定員充足率
1号認定	22,067	64.2%	26,233	55.8%
2号認定	3,034	93.3%	5,945	87.2%
3号認定	2,071	94.1%	4,533	87.7%
合計	27,172	80.8%	36,711	74.2%

【表2】実績（令和3年4月1日現在）

実績	出生数対前年比	2・3号認定供給過多	定員充足率
国全体	－2.8%	274,847	90.9%
静岡県	－4.1%	8,511	88.8%

〈今回の記事を受けての感想〉

全国的な少子化が予測よりも加速している現状は前回の記事とも合わせよく理解することができました。これからの園が、定員を縮小しながらも互いに切磋琢磨していくのか、はたまた淘汰されていくのか、地域に根差した私学園だからこそ、建学の精神のもと、今何を求められ、私学として何をすべきかを本気で考えなければならない時期なのかもしれませんね。

広報委員長　足立

静私幼だより
NO.194
2022.03.15

ナイスショット

チアリーダー

氷みっ～けt!

大きな大根

「かきぞめ」に挑戦!!

ブルーペイント!みんなで海を描いたよ!

ピンクおに あかおに あおおにだぞぉ～!!

切手をください♪

コマ回し、じょうずでしょ!?

落ち葉シャワー

ピクニック

2年間の広報委員会活動を振り返って

- 第1回目の委員会から、何もわからないままリモート会議に参加。思っていたよりもお顔を拝見しながらの情報交換がスムーズにできました。2年間ありがとうございました。
- 様々な文章に触れることのできた、実りある2年間でした。
- 園長職をしばし離れ、学生に戻ったように心がいっぱい働いて嬉しい時間でした。
- この2年間、オンラインも併用した委員会がほとんどでしたが、多くの学びを得られました。
- 委員会に参加して情報交換と学びの機会となりました。有難うございました。
- 何も気にすることなく子ども達と活動できる日が待ち遠しいですね。ありがとうございました。
- 委員長はじめすばらしいメンバーに恵まれ、充実した2年間でした。ありがとうございました。
- とても楽しい時間でした。（もちろん真剣に参加していました。）教員養成校との意見交換会に参加でき、有意義な時間となりました。
- 文章や漢字など、たくさんの学びがありました。ありがとうございました。
- 静私幼だよりの校正や教員養成校との意見交換など、たくさんの学びがありました。
- コロナで始まりコロナで終わる2年間、様々な経験を積ませていただきました。皆様に感謝です！

発行人／千葉 一道
編集人／足立 武裕
広報委員会

発行所／(一社) 静岡県私立幼稚園振興協会
〒420-0853
静岡市葵区追手町9番26号
静岡県私学会館内
TEL.054(254)6820・FAX.(255)3694

http://www.shizushiyou.or.jp/
E mail: office@shizushiyou.or.jp

印刷・レイアウト／(株)三創

このQRコードを携帯電話の「QRコードリーダー」で読み込めば、協会HPの携帯サイトにそのままアクセスできます。